気象台一口メモ

津波防災の日（11月5日）

平成23年の東日本大震災では、津波によって多くの人命が失われました。これを受けて、「津波対策の推進に関する法律」が制定され、毎年11月5日が「津波防災の日」と決められました。この日は安政元年（1854年）11月5日の安政南海地震（M8.4）で和歌山県を津波が襲った際に、稲に火を付けて、暗闇の中で逃げ遅れていた人たちを高台に避難させて命を救った「稲むらの火」の逸話に由来しています。

気象庁は、地震が発生した時には地震の規模や位置をすぐに推定し、約3分を目標に、大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。このとき、予想される津波の高さは、通常は5段階の数値で発表しますが、巨大地震に対しては、精度の良い地震の規模をすぐに求めることができないため、予想される津波の高さを「巨大」や「高い」という言葉で発表し、非常事態であることを伝えます。

津波から命を守るために、津波警報が発表されたときや、海岸付近で強い揺れや弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたらすぐに避難を開始しましょう。また、日頃から避難経路や避難場所を把握しておき、避難訓練を行うなど備えが重要です。

お問い合わせ先：稚内地方気象台　電話：0162-23-2679

地域おこし協力隊通信 vol.23

トナカイ観光牧場で青いケシが咲き始めた頃に植えたデルフィニウムの苗が、他の植物の世話や夏のイベントのため世話をかまけていたら、二月ほどすると見事に茂った草の中に埋もれてしまいました。陽も当たらずほとんど生長していません。これは大変！ デルフィニウム救出作戦を開始し、他の作業の合間に、陽が当たるように花の周りだけでも、と草取りをしました。すると、9月過ぎてからはちらほらと開花してくれました。

10月のある月曜日、バスツアーのお客さまがみえました。トナカイを案内した後の一コマ。

「あっちはなに？」「ノースガーデンといって、北方圏の花を主に育てています。」「青いケシって聞くけど、どこにあるの？」「こちらですけど、花の時期は6月中旬から7月で今は咲いていません。」「向こうに見える青い花は？」「はい、あれはデルフィニウムです。」「そうかあれがデルフィニウムね。」…「青いケシは見られなくて残念だったけど、デルフィニウムが見られてよかったわ。青いケシの時期にまた来たいわ。」「ぜひまたいらしてください。」

喜んでもらえ、草取りの努力が報われた瞬間でした。

取っても取っても、すぐ生えてくる草取りを通して感じたこと。

「草に覆われてしまっても消えてしまわず、周りの草を取ることで元気に成長してくれたデルフィニウムの生命力の強さに感心」「全部の草を取り除くのは無理だけど、草も緑のじゅうたんとして、刺身のツマのように花を盛りたてる脇役として見せる工夫をするのも一つの方法かな」「雑草と呼ばれる植物（雑草という草はないのですが）も花が咲いたときはきれいに見えるものもある（例えばタンポポやコウリンタンポポ）ので、花として活用することもできるのでは」などなど。

草の中のデルフィニウム

花壇整備の作業を通して、「花の見せ方＝花壇のデザイン」の必要性を感じました。また、植物だけでなく花壇を楽しんでもらうためのアイテムを取り入れる方法もあるのではと感じています。これからは、いろいろな課題を踏まえて来年に向けての準備をしていこうと考えています。

地域おこし協力隊　丸田